



ICRP次期主勧告の策定に向けた課題と 日本保健物理学会の活動を考える

国際組織等の活動動向:
放射線防護システムの見直しに関するIRPAの見解

2021年7月

放射線防護システムの見直しに関するIRPAタスクグループ^①設立
ICRP ポジションペーパーへのフィードバック

Sigurdur Magnusson, IRPA EC, chair

20の加盟学会からメンバー30人

JHPSから佐々木理事、楡垣委員が参画

ICRP Work Shop on the Future of Radiological Protection,
19-20 October 2021 で発表



強い合意が得られた分野

- **複雑さとコミュニケーション**

- 放射線防護システムの複雑さと、その結果としてのコミュニケーションの難しさが懸念される。

- **保守性**

- RPシステムが過度に保守的になっており、規制システムにおける適用がさらに保守的になっているという懸念がある。

- **勧告の実装**

- 勧告は、規制の枠組みの中で、合理的な方法で実施可能でなければならない



強い合意が得られた分野

- **勧告改訂における安定性と正当化**
 - 勧告には安定性が求められる。
 - 勧告の変更は、純然たるプラスの利益をもたらすものでなければならない。

- **倫理的側面**
 - 勧告における倫理基盤を強く支持する。
 - 本システムの見直しにより、科学的根拠に加えて倫理的根拠を明示的に取り入れることが有益な分野を特定すべきである。



強い合意が得られた分野

- 環境保護に関するICRPの意図や、実際にいつどのよう
に考慮すべきかについて、さらなる説明が必要である。
- 明確性、一貫性、透明性のあるステークホルダー参画を
目指す。
- デトリメントとベネフィットを検討する際に、WHOの健康
の定義を含めることを支持する。
- WHOの健康の定義を使用することには、実装上の問題
があるのではないかという懸念がある。例えば、誇張され
た恐怖から生じる精神的健康への影響など。



最適化のためのホリスティックなアプローチ

- 非常に強い支持が示された。
 - 最適化は最小化ではないことを強調する。
 - 過度な保守主義を避け、合理的な注意を払うことを促進する。
 - リスク／ベネフィットの検討に放射線以外の影響を含める。
 - 自然バックグラウンド被ばくの変動を考慮する。
- 最適化に対する全体的なアプローチのための実践的な提言が必要である。



線量と放射線影響

- 概ね同意の事項:
 - 科学的見地からの実効線量に関する提案について
しかし、実践・倫理的な実施に関する懸念がある。
 - 拘束値と参考レベルの概念を組み合わせる。
- 組織への影響が深刻なものとそうでないものを区別することが重要
- 個々の感受性が重要。特に医療において。



意見が一致しない分野 LNT

- ほぼ全てのASは、低線量における不確実性を認識しつつ、実用的/保守的なアプローチとしてLNTの継続使用を支持
- 低線量でのリスク管理のバランス
規制ガバナンスや財政負担は他の産業における同等のリスクに見合うものでなければならない。
- 新しい研究結果に照らして、LNTは改善できるのか？